



だたら

第20号
(2023年1月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
http://oushimaned.main.jp
E-mail: info@oushimaned.main.jp



松江城大手前に集合した鑿行列と観衆

松江城下に響く鑿

松江の秋の風物詩「松江鑿行列」が3年ぶりに開催され、城下町に太鼓「鑿」の音が響き3年ぶりに開催されました。鑿行列は打ち面を上に向けた大太鼓「鑿」(写真・上)を複数据えた山車「鑿宮(どうみや)」を、老若男女が打ち鳴らし城下町を練り歩く祭りですが、新型コロナ感染拡大の影響で2年連続中止になっていました。

鑿行列の起源は、平安時代に宮中で行われていた正月行事の「左義長(さぎちょう)」を起源とする「とんど行事」に遡るようです。鑿宮は歳徳神(としとくじん)の仮宮とし白木社造りの宮宿を模して造られており、鑿宮の正面には歳徳神額を掲げています。現在のような鑿行列は、大正天皇即位の御大典の時からです。各町が屋根付きの鑿宮を造り、行列したのが始まりといわれます。

今年は事前に21の町内・団体が参加を表明したのですが、コロナの影響で参加を見送ったところもあり、最終的には14の町内・団体の参加になっています。

大半の町内が高齢化と市街地のドーナツ化現象で、親子の過疎化が進み、後継者不足が深刻な状況となっています。松江城大手前から白潟天満宮まで約1.8キロを練り歩きますが途中4カ所の演舞場で観衆に鑿打ちを披露します。

城下町に響く勇壮な鑿の音は、地域力を高めコロナで疲弊した人々を元気づけたようです。

松江城大手門前に集合した鑿行列は、市街地を練り歩く前に鑿宮に乗せた大きな鑿を打鳴らし、笛やチャンガラの囃子で各地区に伝わる伝統のリズムを披露します。

(写真・文 森勝男さんより提供)

あけまつりおもしろい祭りです

2023

正月

「当たり前でない時代」へ

副会長 石川直樹



皆様あけましておめでとうございます。副会長の石川です。今年は会長に代わりまして新年のご挨拶を申し上げますことになりました。

コロナとの闘いも早3年目を迎えることになり、またウクライナ戦争も終わりが見えません。相変わらず世界中に暗い影を落としたままであります。加えて、旧統一教会の問題等も発生しました。特にここ一年は情報の扱いについて、メディアの在り方を考えさせられる一年でもありました。個人としてニュースソースの真偽の判断は極めて難しいものではありますが、まず信頼できる情報を選択する目を養うことが大切であることを痛感しました。そのためには放送大学での学びを通した複眼的な視点の習得や最新のIT技術を使い複数のソースにアクセスし情報を選びとることが重要だと感じたいです。

コロナ禍で習慣的な行事の見直し

さてそのコロナもウクライナ戦争も、私たちに従来からの当たり前がそうでないことを突きつけました。生活では従来から続いていた多くの習慣的な行事の見直しがありました。会社で言えば、在宅勤務の登場や転勤の廃止や見直しなど大きな変化がありました。

放送大学にもその影響があったと思います。単位認定試験のWeb化やオンライン授業など便利になった部分がある一方で、急激な変化に対応できない方々もあったのではと心配しています。また一般の大学ではリモート授業の推進や企業・団体における様々な場面でのWeb会議の定着など、放送大学の特徴である通信を利用して、いつでもどこでも学習できることが特別のものではなくなったように感じます。したがって、これからは、もっと内容で学生を引き付け、魅力ある大学になる必要があると思います。授業内容の充実や学生ニーズのタイムリーな反映等、絶え間ない改善が求

められると思います。

また、旧統一教会の問題も重要です。怪しい手法で金を吸い上げ、被害者を発生させたのは許せないことですが、さらに一部の国内勢力と手を結び政権に取り入り反社会性を拡大していたことだと思います。それが国の政策に影響を与えたとしたら極めて大きな問題です。メディアを含め政府も徹底的に解明すべきだと思います。私たちが正しい情報により今後を注視していく必要があると思います。

取り巻く環境は刻々と変化

終わりに、上述した例のように私たちを取り巻く環境は刻々と変化していきます。これに適切に対応し安全で安心な生活を創ることは国民の使命だと思います。それには情報を正しく理解して行動することが必要です。放送大学はそのような知識を幅広く習得する場を提供してくれます。学びには年齢はありません。今年も皆さんとともに学び・活動できることを楽しみにしています。今年もよろしくお願い致します。

2022年度(令和4) 第1学期 学位記授与式



2022年度第1学期学位記授与式が、9月25日(日)午前10:40分から、松江市民活動センター(STIKビル)5階「交流ホール」にて三密を配慮して、恒例のセンター講義室ではなく広い会場にて開催された。

今学期は教養学部17名の方が学位を授与され、そのうち当日の授与式には9名の方が出席され、学位を授与された。病氣療養中の田坂所長に代わ



り、隈部正博所長事務取扱(放送大学副学長)から卒業生に対し「名誉学生の称号を授与された方、複数コースで学ばれた方、外国籍のある方など多彩な方々が晴れの学位記を授与され、誠にありがとうございます」と祝辞を小仲事務長が代読した。

次に来賓として同窓会長竹下会長より卒業された皆様へ「職場、地域、家庭にあって学生生活を送られ、その間多くのご経験や幾多の困難を克服されて学士の学位を授与されましたことに敬意を称します。今後は学びを生かして社会に還元をしてください」また、「卒業生の皆様全員に同窓会にぜひご入会下さい。」とお祝いの挨拶があった。

卒業生代表挨拶は、外国籍のある張さんが「13年かけて



卒業を迎えましたが、この間学習センターの皆さん、主人と家族にも感謝の言葉を送ります。履修登録、教材の理解不足を主人に聞き、面接授業時は家事が出来なくて、子供たちは冷凍食品を食べたり、自分たちで簡単な料理を作っていて、支えてくれたので達成できました。」と挨拶された。

今回の学位記授与式には、外国籍のある方が学士を授与されたことで、私の記憶では初めて地元マスコミ紙が取材された。卒業生代表あいさつでは、「初の外国籍のある卒業生が担当し、13年間主人と子供のサポートを受けての卒業となり、家族に感謝の言葉を送りたい」と異文化の地での学びの困難さの一端を語られたのが印象的であった。日頃は何となく母国語に慣れ親しんでいたことに、改めて多言語に直面することを避けていた生活の工夫が求められると感じた学位記授与式であった。

(竹下)

2022年(令和4)度第1学期

卒業を祝う会を開催しました

2022年度第1学期「卒業生を祝う会」が、卒業生、同窓会員、役員、学友会、学習センター、客員教員の皆さん方により開催されました。

石川副会長の司会により進められ、「皆さまのご卒業に際し、同窓会としてお祝いをしたいと本日の会を開催しました。この会は同窓会ができたときに、卒業をされた方をお招きしてともにお祝いをしたいとの思いから企画され、今日に至っています。同窓会は2013年3月に設立し、10年目を迎える会員も70数人となっています。小さい会ですが活動内容は全国でも注目をされています。本日はご卒業された皆さまに、体験された思いを後輩に対する学生生活や単位取得についてのアドバイス等をお願いします。」

I：私は3回目の卒業となります。最初は人間の探求、生活と福祉、今回は心理と教育



です。3回目となりますと経験を積み、学習する時間を効率よく使う一方、達成感を味わう気持ちが低下しました。しかしさらにいろいろなことに興味を持ち、継続入学しました。皆さんの中に継続入学された方がおられましたら、学生同士として共に学び、交流を深めたいと考えています。

Y：私は50歳前からの入学でしたが、果たして卒業できるか不安でした。最初はコースに関係なく、興味のある科目を履修し、10年近くになりやっと卒業しましたが、他のコースの科目も多く合格していましたので、卒業して1年間は休憩していましたが、何か物足りなくて履修しましたが、選択したコースだけではなくたまたま他のコースの興味ある科目を受験しました。計算して卒業を目指すのではなく、ただただ気楽に科目受験に挑戦しました。最後はコース終了のための科目

に集中して取り組みましたが、学んだことの多くを忘れていますが、気が付いたら6コースを修了していました。

H：私は音楽療法士の学会で資格を取った折に放送大学を知り、心理や福祉の単位が学べることを知り入学し、認定心理士の資格を取り、仕事も変えて福祉関係の仕事をしていますので、福祉や心理も深めるために頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

C：私は結構長いこと学生を続けています。家庭と子育てと学生を続けてきました。家族の支えで卒業できました。感謝です。

T：幸いにして今回3回目の卒業となりました。得意分野とする科目がだんだんと狭まって来ました。これまでは次のコース、次のコースと関連づけて継続入学をしてきましたが、今回は得意分野のコースがまだ見当たらないので、科目生として入学して考え、次の年に備え探したいと思っています。

今回の生活と福祉では放送授業の中で、全国の各分野で活躍されている方で、松江市の公民館で活躍されていることが印刷教材に紹介され、放送大学が認めていることとなります。ぜひ講演会や公開講座等で聞ける機会があってもよいので企画してほしい。

S：20年前に時間があり何かに取り組みたいと考えていて、医療関係の仕事でしたので、放送大学を知り医療、福祉を学びたいと思い編入学しました。学ぶ中でいろいろありましたが、センターの皆さんに助けていただき卒業を迎え感謝をしています。皆さんのようにこれといった目標がありませんが、卒業してから家庭、子育てをしながら自分に興味のあるものを子供の高校生とともに学びたいと考えています。

K：放送大学入学したのはずいぶん前でしたが、仕事の関係で大学を卒業していなかったため、学位を取りたいという目的でした。当時子供が高校生でしたので、子供の大学卒業に合わせてともに卒業をしたいと思いました。仕事は医療関係でしたので関係のある科目を履修して、仕事に活用しました。平成13年に1回目の卒業をし、そのあ



とも仕事の関係のためになる科目を選択していました。他の大学院も受験していましたが、放送大学の修士を時間かけて修了できるので、放送大学に再度入学しました。

個人的にはゆっくり自分のペースで学べたのがすごくよかったと思っています。今日こうして卒業でき学位記を貰うということはとても嬉しいことだと感激しています。今後ですが、やはりマイペースで自分の好きな科目を選択して、勉強しようかなと思っています。PCを新しくしたことで操作に手間取りやっとならぬ15日に継続入学の手続きを終えました。

A：私は鳥取県大山町から入学しており、1時間ぐらいかかります。今は退職していますが現役中にすこしずつ単位を取得していました。現在大山町ガイドボランティアの会長に就任しています。自然と観光、妻木晩田を愛しております。自然といっても非常に広いですから、自然の生態系を深く学びたいと考え、自然と環境コースを学びました。その中で大学のエキスパートのいろいろな資格に興味があり、そのために資格取得の科目を履修していたら、7つの資格を取りました。知らず知らずに124単位を取得して卒業に至りました。現在大いにガイドボランティアに活用しています。

高須：客員教員です。ご卒業誠におめでとうございます。日頃の勉学に伴う成果であると思えます。現在コロナ禍の中での学習となっていますが、幸いなことに放送大学はもともとリモートでの履修もできたので、あまり影響がなかったのかなと思います。

ただし面接授業等は対面ではなくリモートとなりました。放送大学は先ほどお話がありました通り、同窓会や学友会の活動が活発に取り組まれているのが特徴です。同窓会活動によって新たな交流ができますので、これから皆さんの活躍の場となり、財産となることでしょう。

学位記授与者の声

2022年度第1学期に学位記を授与されました17名の皆さんに、会報“たたら”にご投稿をお願いしましたところ、4名の方からご協力を戴きました。紙上をかりて厚くお礼を申し上げます

(原稿到着順)

学んだ知識を地域貢献活動に

自然と環境コース 阿部 誠



私は退職してから、地元で観光ボランティアガイドや地域活動等を行っています。ガイドを行うなかで、興味や関心がある動植物や歴史を深く学びたいと思い、生涯教育として放送大学教養部「自然と環境コース」へ、2016年4月1日に入学しました。

「放送大学エキスパート」の認証状の取得を積み重ねながら、家族や友人・島根学習センターの方々等、多くの人に支えられ2022年9月25日に6年半をかけて学位を取得し卒業しました。

放送大学では時間や場所が制限されず、空いた時間や好きな所で自由に学ぶことができるメリットがあります。入学時に抱いたモチベーションを持続することは大変でしたが、意思を強く持ち卒業に対する単位取得に挑戦することができました。その方法として興味や関心がある科目群を体系的に学ぶことができる「放送大学エキスパート」の認証状の取得があります。

私は観光ボランティアガイドや自然観察会及び地域活動等を行っていますので、それに役立つ科目を学びながら認証状の取得を積み重ねました。「自然系博物館活動支援」「歴史系博物館活動支援」「宇宙地球科学」「生命人間科学」「環境科学の基礎」「健康福祉運動指導者」「食と健康アドバイザ

ー」の7プランの「認証状」を取得し、その結果、学位必須124単位に対して138単位を取得し卒業できました。

今回学んだ知識を観光ボランティアガイド〔国立公園大山（動植物等の自然と歴史文化の総合案内）、妻木晩田史跡公園（弥生遺跡の案内）〕や自然観察会・行政・自治会等の地域活動に役立てていきます。そして、これからも様々な機会を捉え生涯学習を続けていきたいと思っています。

スキルアップへの継続

生活と福祉コース卒業 竹内 徹



放送大学を知り得た頃は仕事との両面を考えるや大学卒業は夢の話という感覚でいた。思い返すと将来の姿は分からないもので、延いてはその後の学習センター職員様より背中を押して頂くお言葉で全科履修生をスタートできたことに感謝する。

子供の頃から理数系が得意でまずは社会と産業コースに属したものの、外国語の面接授業は辞典を傍らに四苦八苦し。苦い経験にも老若男女分け隔て無いコミュニケーションを軸に、創作支援ご協力や楽しさ覚えるチームワークに繋がったのは放送大学の魅力である。

客員の先生方には面接授業と動かせない都合が重なる事態や経験の無い課題への学習相談にも優しく接して頂き、また同じ授業に意気投合した同士で提出課題答案を仕上げられたのは喜びである。

過去の授業や若年者関係報道より次世代教育に興味を抱いて心理と教育コースに属した際、未経験な分野を図書館書籍の閲覧や公開講座等で情報獲得に努めた。続く生活と福祉コースでは地域福祉領域の授業に松江市施策と公民館事業が扱われていたことが印象深い。

更にインターネット施策がコロナ禍より認定試験に繰り上げ導入されたことで利便性に富む反面、今後の厳格化に向けては個人情報保護対策に期待する。

学生として新しいコミュニケーションツールに接しスキルアップは立ち止まること無いようにしたいが、余裕を挟むのも大切で環境領域の興味より履修を継続する。

心のゆとり、遊び心をもって 放送大学で学ぶことの楽しさ

社会と産業コース 川上美里



2度目の学位記授与式に出席させていただいて、早2か月になろうとしています。私はほんの少しのゆとりと楽しみの時間をもつつもりでしたが、ほっと息つく時が長すぎて毎週末やってくる孫とのお遊びや週1回のお茶のお稽古、ほぼ隔日のプール通い、週1回の学童ボランティア、野菜作りの手伝いなどでいつしか秋の夜長（晩秋）になってしまいました。

思い起こせば、1度目の卒業時は看護師として就業しており、仕事に関係する科目を、高校生と大学生の子供たちに負けないように、家事を終えて23時頃になると部屋にこもり、一生懸命学習した記憶があります。おかげさまで、我が家は母と子供3人が無事に学士取得することができました。夫は「4人を大学に出してやったぞ」と自慢しています。

その後はちょっと一休みをしてから、他大学大学院で修士論文を頑張り大学院を修了しました。その翌年に日本看護管理学会で報告することができました。働いていると無性に学習する楽しさ、知ることの大切さがよみがえり、さらに学習しようとの思いから放送大学大学院で仕事に関係する内容の科目を選択して楽しく学びました。

62歳で看護師の仕事を終えて、何かを見つけようと「社会と産業コース」で読書をするように、だれにも迷惑をかけないでひっそりと、ゆとりをもって学びました。知るといいことです。人との会話の中で学んだことが何時しかスパイスの様にピリッと出てくるのです。嬉しいです。

退職後は学童ボランティアでの子供たちの宿題の見守り、校庭や体育館ではパワー全開で遊ぶ子供たちと交流をしています。半年に1度安全委員会で意見交換を行い、活動をよりよいものにできるよう努めています。そのために今回は「心理と教育コース」で学びを深めたいと考えています。昼間は秋の自然に触れ、紅葉を楽しみ、室内では照葉を一枝さして晩秋の風情を感じて、秋の夜長たつぷりとある夜の時間を有効活用して心のゆとりを保ちながら、金銭では買えないリッチな時間を過ごしていきたいと思います。

今はわたしが学び続けることで、7人の孫たちに学ぶことの楽しさ、大切さを示していけたらいいと思うこの頃です。

放送大学では 色々なことを学んだ

情報コース 山根 誠



学位記授与式にはお祝いをしていただきましてありがとうございます。ございます。

放送大学に入学したのは49歳の時で、24年間放送大学にお世話になりました。

最初の卒業は約10年かかりました。自コース、他コース関係なく自分の好きな科目を選んで学び、数年たってから卒業するために、自コースを選んで単位を修得して卒業することができました。

最初は仕事と学業との両立ができるか不安で、教科書を読んで放送を見たり聞いたりして1科目2時間位かかり、色々な都合で勉強ができないと録画したのが貯まる一方になり、やがて試験勉強もしなくてはならなくなる。

試験に不合格になると学費が気になる。次第に何のために勉強しているのだろうか等考えてしまう。ただ試験に合格すると気になっていることが吹っ飛び、緊張感と開放感が楽しめるようになってきて、勉強も生活の中の一部になってくると何時間も机に向かって勉強しなくても15~20

分でも、空いた時間に少しずつでも勉強するようになってきた。自分のペースで何年も続けることができるようになった気がします。

大学を卒業したい思いと、物事をあまりにも知らなさすぎる自分と、切羽詰まらないと動かない自分、放送大学によって少しはできてきましたがまだまだです。何をすればできるようになるのか一生涯の課題です。

放送大学で色々なことを学習させて頂いてありがとうございました。

(編集部注：山根 誠様は島根学習センターで6人目の名誉学生となりました)

社会貢献活動に 取り組む会員探訪 ⑤

大山町 阿部 誠さん



「社会貢献活動に取り組む会員を尋ねて」のインタビューは、今回で5回目となる。

島根学習センターを卒業された同窓生が「地域社会の為に役に立ちたい」、「ご恩返しをしたい」との思いを持たれて、そして島根鳥取の山陰両県にはそんな方が居られて活動をされている。

私はそのことを知る度に、取材をさせていただきながら、喜びと誇りを感じています。

10月25日には初冠雪があった中国地方の最高峰



大山。定年退職後「大山観光ボランティアガイドの会」(阿部誠さんは2015年から今日まで8年間、会長を務めておられます)をはじめとして、現在

様々な活動に取り組んでおられる阿部さんの、その活動拠点である、大山寺本堂への上がり口御幸参道本通りにある、「大山町観光案内所」において取材をさせていただきました。

紅葉も終わった大山は、しずかな初冬の佇まいのなか、本格的な冬が訪れようとしていました。

窓から大山寺に向かう彩ゆたかなヤッケに身を包む、老若男女がグループや単独にて御幸参道を上る姿が見えている。

一本日はお忙しいところをありがとうございます。早速ですが放送大学はどこでお知りになりましたか

阿部＝インターネットです。65歳でNTTを退職いたしましたし、68歳の時に入学しました。



子供達をみんな大学へ出して、会社を辞めたときに大学に行こうと思っていました。現在74歳の年齢ですので、6年半位になります。

一放送大学に入学しようと思われた動機は何でしたか

阿部＝もともと植物系のことが好きでした。退職したときに何をしようかと思ったら、妻木晩田(むきばんだ)遺跡のガイドがあることを知りました。そして2005年(平成17)に大山町・中山町・名和町が合併をして新しく大山町となったそのときに、ボランティアガイドを作ろうじゃないかという話が持ち上がりました。植物は春夏秋冬と年中変化しています。家が農業をしていたということもあって、植物というものには非常に難しいモノであると感じていました。

一私も自然と環境コースでは、「植物の科学」の科目取得をしましたが、良かったですね。ところでご入学手続きは島根でしたか、それとも鳥取でしたか

阿部＝鳥取の方は遠方になりますので、最初から島根の方に入学しました。

一鳥取に入学された方で、途中から島根学習センターに変更される方もいます。最初から全科



履修生で入学されたのですね。卒業を祝う会でエキスパートに関心をお持ちということでしたが、その辺の話を聞かせていただけますか

阿部＝大学の事務局の方からエキスパートの制度があるということを知りまして、観光ガイドに関係があるモノを順番にひとつずつとりまして、結局は7つのエキスパートを取得しました。最初に取得したのは、自然と環境コースの「宇宙・地球科学」です。そしてその後「生命人間科学」。また妻木晩田史跡については博物館の知識が要ると思い、歴史系の博物館プランである「歴史系博物館活動支援」のエキスパートを。それに自然系博物館プランの「自然系博物館活動支援」を取得しました。また「食と健康アドバイザー」・「生命人間科学」・「環境科学の基礎」・「健康福祉運動指導者」など、マアそうこうしているうちに結果的に124単位を超えて、卒業の単位となりました。卒業する目標を7年ぐらいのつもりでいましたが、結果的には138単位取りました。放送授業で116単位、面接授業で22単位です。

－エキスパート取得を目指して、それが始まりで卒業されたという方は、私ははじめておめにかかりました。だから阿部さんにとっては、取得されたエキスパート資格そのものが即、現在の活動に大いに役立っているのですね

阿部＝大学で得たことは、植物にしてもどんな形で生きてきたのかとか、歴史にしてもその記述はどこにあるのか等、一歩進んで別の角度から深く探求することができる力がついたことです。その結果、ボランティアガイドに際して掘り下げた解説ができ、お客さんから好評を得ていることですかね

－ボランティア活動を始められたのは何時ごろですか

阿部＝最初の活動は妻木晩田(むきばんた)の会で

して、これは2005年のことで、すでに18年になります。今の遺跡(妻木晩田)辺りは、昔は山ばかりでした。父親がああ辺りの山へマツタケを取りに行ったりしていて、愛着があります。

－ボランティアガイドの皆さんの年齢層は・またその人数はどれぐらいおられますか

阿部＝男女合わせて22名で、男女比は半々ぐらいの人数です。女性は若い人が多いです。お勤めになっておられる方が多いですね。また大山町の観光協会が、活動のバックアップをしています。



－一年間にどれぐらいの活動をされていますか

阿部＝2007(平成19)年4月から2021年(令和3)3月までの、この15年間のガイド活動総件数は、延べ18,237人の方のガイドをしました。一年間では約1,000人ですね。

－ガイド料金とはどれぐらいですか

阿部＝1,000円です。10人のグループなら10,000円となります。妻木晩田は無料です。

－大山の魅力とはどんなところでしょうか

阿部＝手つかずの自然ですね。ブナ林や大山キャ



ラボク。動物や昆虫や鳥、そんな多様な生物が、四季を通じていろんな姿を見せてくれます。また歴史的には奈良時代からの山岳信仰があります。俳句や短歌やいろんな文化があり、本当に魅力い

っぱいの山です。

—活動の特徴とは、一言で言えばどんなことでしょうか



阿部＝なかなか一言では言えませんが、結果としてお客さんから喜んでもらえるこ

とでしょうか。

終わりにありがとうございましたとお礼を述べられることで、また頑張らなければと勇気を貰えることになります。私たちの活動が評価され、大山町長から表彰をされています。実は明日から東京でNTTのOB会「電友会」から地域活動の実績を評価されてこの度表彰を受けに行きます。

—日常生活では、どんな過ごし方をされていますか

阿部＝家族は現在長男家族5人と私達2人の7人家族です。田畑が1町歩ありますので、その世話があります。また孫の世話とか、孫の通う学校から私に直接電話があったときなどは、その対応をしたりして忙しくしています。

—阿部さんは座右の銘とかをお持ちですか

阿部＝努力をしたら明るい未来が来るという意味の「雲外蒼天^{うんがいそうてん}」という言葉。それにノーベル賞学者の本庶佑さんが言われた「有志竟成^{ゆうしきょうせい}」という言葉です。つまり努力をして成せば必ず志は達成されるという意味の言葉です。

—私たちにとっては、全く心して聴かねばならない言葉ですね。阿部さんも時には沈んでしまわれることもあろうかと思いますが、そんな時にモチベーションを高めるような努力はされておられますか

阿部＝「やるべきか、やらないか」と迷ったとき、私は「先ずやってみる」という気持ちでいつもいます。やってみてダメでも先ずやってみることですね。

—卒業生及び同窓生へのメッセージを伺おうと思っておりましたが、今言われたことが即同窓生・卒業生に送るメッセージでもありますね。

本日は東京へ出発前のあわただしい中にも係らず取材にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。



取材を終えて

座右の銘は「雲外蒼天」「有志竟成」だと話された阿部さん。

四季おりおりの美しい景観や、西日本一のブナ林の広がる自然豊かな大山をガイドされる時も、人や自然への深い愛情を注がれておられる、あの穏やかな笑みと、優しいまなざしとでキット「また大山に行ってみたいな」と、多くの人が抱かれるであろう、そんなことを今回のインタビューをさせていただきながら私は思いました。

お客様からの「ありがとうございました」の言葉に大きな喜びを感じているといわれる阿部さんは、お尋ねした座右の銘を話されたような、地道な努力を惜しまずに続けられる、そんな深い信念をお持ちの方だと感じました。そして日々の活動のなかに生きがいと喜びとを感じておられるその姿が、本当に輝いていました。

明日と明後日（11月16日と17日）には、東京で行われる活動の表彰式に出席されるという阿部さんには、お忙しいなか快く取材に応じていただきました。ここに改めてお礼を申し上げますとともに、ボランティアガイドの会のご発展と阿部さんをはじめ、会員皆様のご活躍をお祈りいたします。

二宮尊徳が折に触れて話した詞をまとめた『二宮翁夜話』という書には「要は実行にある」というのがある。「わが教は実行にあることは、前にも述べたとおりである・・・たとえば、農家がもし実行を廃止したら、たとい昼夜農学を研究しても、その家は必ず乱れるだろう。わが報徳教も講演論説ばかりで実行がなければ、世間に行われる儒学者流、心学、性学者流と何の異なるところはない」。

また最近の新聞にはこんな記事もあった。令和4年2月4日の山陰中央新報の一面には「中村元・慈しみの心」にこんな記事があった。

「もろもろの書を学んでも、なお愚かな人もいる。自ら行う人こそ、真の智者である。すぐれた処方箋でも、その名を唱えるのみでは、病気の人には治癒はもたらさない」(『ヒトパデーシャ』) 私たちは放送大学で沢山のことを学んでいるが、ここに云われているような真の学びと、果たしてなっているであろうか。

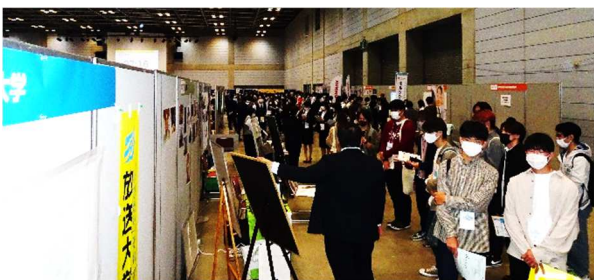
今回阿倍さん取材させていただいて、私はあらためて、このことを考えさせられた。

ところで・・・「チョットチョットアンタ、何処其処にコゲナシー方が居ラッシャーでネ」或いは「己等(オイラ)こんなことをやってるんだがナー」・「私(アタイ)こんなことをやってるのヨ」そんな方居られますかネー?

例えば人知れずに地域内の清掃活動をやっておられる方とか、学童、児童の通学の交通整理をやっておられる方とか etc. 他薦、自薦は問いませんので、どうぞ編集部の方へ情報をお寄せください。(知野見孝信)

次回訪問の会員を自薦・他薦募集しています。ぜひとも広報部までご一報ください。

しまね産学官人材育成コンソーシアム主催
しまね2022 大交流会に参加



学生・生徒自身が島根の企業・行政・NOPなどから、社会の在りようを学び、また産学官の協働体制の下、学生自身の研究や学びを発信することを通じて、自身の生き方や働き方を主体的に考え、地域を支え、地域で活躍する人材の育成を図り、企業等がそれぞれの良さや特徴的な取り組みを発信することを通じて、学生・生徒によって魅力ある生き方や働き先を周知することなどを目的にしまね大交



流会2022が開催された。島根大、県立大、松江高専、放送大学、IT企業、行政、観光、NPO、建設業等120もの展示や紹介ブースがあり、来場者1,400人(若者954,大人448)が参加した。

放送大学島根学習センターの出展には同窓会が協力したのは2回目となる。前回の教訓をもとに趣向を凝らした展示を行い、ブース来場者は89人(9.33%)で、女性32人、男性57人、高校生34人、大学生55人であった。特に高校生は隠岐島前高校から1年生が学校行事として50人、県立益田東高校から集団で来場していた。松江や出雲からの来場はなかった。大学生では島根大学の1・2年生が中心であった。



放送大学は、PowerPointで作成した資料「放送大学で学ぶ3つの魅力」①時間や場所を問わずに学習できる。②学位の取得、各種資格の取得。③学費の安さ。を説明するとともに、来場者からの質問に同窓会が回答した。結果、ベストブース投票結果で部門別ではトップの団体となり、放送大学の存在がだんだんと県民から認知されてきた証しであろう。(竹下)



第8回 放送大学同窓会中四国地区交流会



年1回各県持ち回りで開催している交流会は、今回は鳥取同窓会が当番となり、11月26日(土)13:00～27日(日)12:00まで会場は学習センター講義室が狭いため利用できず、鳥取市内のホテルで開催された。

市内戎町の袋川沿いにある「鳥取シティホテル」で、すべての同窓会と大学本部、連合会代表、学習センター所長以下鳥取同窓会役員・会員総勢44人が参加して開催され、島根同窓会から竹下会長、石川副会長、仙田理事が参加した。

交流会は清水副会長の司会により、開催県の澤田同窓会長が「3年ぶりの開催となり、歓迎とこの間の活動報告で実りある交流会となることを期待する」と挨拶があり、続いて大学本部近藤学長特別補佐が放送大学の近況と題し、①コロナ禍での単位認定試験が会場受験から自宅受験となり、学生にとっては持ち込み可能となった。②面接授業の在り方も対面からオンラインでの開催となったこと。③中国四国ブロック学習センターが編纂した『放送大学に学んで』を読み、非常に感動したと挨拶された。

続いて連合会南谷副会長(兵庫同窓会長)から、①2022年3月本部での卒業パーティ開催について、中止として現在検討中である。②助成金申請



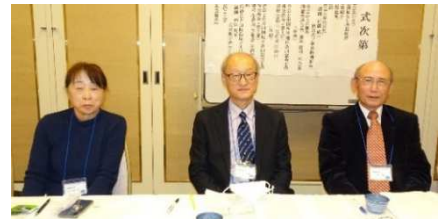
について、計画書の提出を延長し、適用項目もITT機器購入や研修会も新たに追加したことから、積極的に活用してほしいと挨拶された。

各同窓会から順次活動報告に加え、課題と展望について報告と質問を行って交流を深めた。

交流に続き、西田元所長から「鳥取砂丘と山陰ジオパーク」について講演があり、内容は日本海・山陰海岸の形成史を、多数のスライドを用いて解説された。

各県同窓会からは主に課題と展望についての発言は以下のとおり。

島根: コロナ禍で島根は発症率が高くなり、企画している



事業が大きく制限され、団体としての活動が出来ず、①会報の年2回発行継続と読まれる工夫として、紙面印刷をオールカラー化、②新しい会員が紙面に登場する機会を増やす、③会員の地域活動と名誉学生への訪問取材、④地域別会員の卒業後の動向と活動を紹介している。

岡山: 同窓会活動が楽しい会となるよう、①知名度を上げるため公開講演会の開催、②会員対象のおしゃべりサロンやハイキングを開催、③課題は新しい役員を発掘できないでいる、④会報配布をmail配信できないか検討中である。



広島: ①役員の高齢化と固定化、②卒業生のみでなく現役学生を含めた組織を検討中、③会報の発行では個人情報の保護からInternetへの掲載を危惧、記事の内容に対するクレーム対応の在り方を検討中。

山口: ①卒業生と在学生在で構成しているが会員の減少、②会員だけでLINEのグループ化で役員、会員の情報交換を検討中、③県立美術館の入館料無料化で存在感を出している。

徳島: 設立15年が経過しているが新しい役員の発掘が出来ていない、②HP「青藍」を開設した、

③所長、事務長の交代で関係継続に不安である。

香川：①会報発行はセンターが全面協力、②同窓会と学友会の統合を双方で検討中、③卒業生・修了生・既卒者へのアカデミックガウン着用撮影会の開催、④大学の紹介で「放送大学へのいざない」を作成して配布、⑤地域別会員交流会、タブレット講習会を開催している。

愛媛：

①同窓会行事に会員の参加が少ない、



②コロナ禍のため学位記授与式・入学者のつどいで該当者のみで案内がない、③組織として学友会の名称がなく、サークルの統合では主導権争いでまとまらないこと。

高知：学友同窓会のため①仲間を増やすための会員拡大、②年1回開催の調査旅行で参加費の補助、③会員に学位記授与式集合写真のmail配信、④単位認定試験、過去問題の有効期限の通知、⑤学習へのアドバイスなどを行っている。

鳥取：①同窓会と学友会との合併を検討中、②実働できる会員が多くなく、役員が固定化、③すべての会員が参加できる活動を模索中。

交流会終了後には、参加者による懇親会が開催され、次回開催地となっている島根同窓会長に引継ぎ式が行われた。



だんだんサロン作文の時間 発表作品 ①

島根学習センター元所長、足立悦男先生のご指導のもと、毎月1回（開催日時は主に各月の第二

土曜日・第三土曜日の午後1時半から午後4時頃まで）島根学習センターにおいて「だんだんサロン作文の時間」を開催しています。

作文・詩・エッセイ・小説・他いろいろな作品が寄せられます。持ち寄った作品は、各自がその場で朗読して発表しています。直接参加できない方は、作品原稿を郵送いただければ、みなさんの批評・コメントを付けて返送いたします。

郵送先：〒694-0052

大田市久手町刺鹿 1303-11

知野見孝信 宛

同窓生の皆さん、途中からでもご参加をお待ちしています。今回は松江市にお住いの安部保江さんの作品をご紹介します。

「私」コロナの今、 ひたすら家において(9)

個人差はあると思うが、私の場合は80歳を過ぎたころから、やることなすこと能率が悪くなった。それでも家族のため自分のために、家事ができることはとても幸せなことである。

1日が飛ぶように早くて、今日1日どんなことをしたろうかと、振り返ってみても、ぼんやりしていた訳でも無いのにもう夕方になっている。神奈川県で家庭を持っている私の次女は、毎日欠かさず電話をかけてくれる。「今日はどんな1日でしたか」・・・と、父親にそして母親と姉に。だから毎日いい返事をしてやりたいと思うので、せめて明るい声で「いつも有難うね」と答えている。夕食の片づけが済みお風呂に入って、それからは全く自分の時間になる。大好きな本を誰に邪魔されることもなく読み始める。私にとっての至福の時間である。本棚にはなん十冊もの本がまだ読み切らないままにしまい込んである。私はその頃、洋裁学校に勤めながら、殿町にあった「みちや洋装店」の仕立て仕事や、その上、毎週1回我が家で洋裁教室を開いていた。以前にも書いたことだが、内職を頑張りすぎて中心性網膜炎になり、仕方なく徐々に仕事を減らして、みちや洋装店の仕事とお茶とお花と詩吟のお稽古だけにした。以上は買った本を読まなかったことの言い訳である。

今こそ本箱の奥から引っ張り出して読まなくては、私の残り時間がわずかしかない。この本たちは、私の30代から50代頃に買った本である。

埴谷雄高の『死霊』、高橋和己『生涯にわたる阿修羅として』、小林秀雄『声と精神』など難しい本もあるから、先日本箱の奥から引っ張り出して少し読んでみた。この年になってもやはり難しい。この『死霊』は、先日亡くなった立花隆が埴谷雄高と対談している本の、となり合わせにあったので、これから先に読もうと思っている。30代の頃どうしてこんな難しい本に魅力を感じたのか、内容もいまだたら少しは理解できるような気がする。

もう先が見えているので、昔買った本で途中までしか読まなかった素晴らしい本をゆっくり読むことにしよう。大学院修士課程では、毎学期2教科とすることに決めているので先学期の成績がAと落第だったので、新しい教科を1教科追加した。

先日送ってきた教科書を見て何が何やらさっぱり解からん!!である。夫がパラパラと捲ってみて曰く。「僕でも解からんようなのを・・・」とあきれていた。ほかの本を読んでいる場合ではないかも。

「作文の時間」令和3年11月19日(土)

安部 保江

上からの立ち上がりが難しくなり、これはなんということだと気付いた。突然の身体の変化にとまどい、整形外科を受診、医師にコロナのせいか、老いか、病気かと診てもらおうと、病気ではないと返ってきた。それと同じ頃この本と出会ったのである。著者は高齢者専門の精神科医として活躍中の医師である。

著者は70代がターニングポイントだと、70歳が老化の分かれ道、その年代の過ごし方にかかっていると。80代でも元気な人に「レジリエンス(回復力)」と「免疫力」にヒントがあると。いかに70代を自由奔放に生きてきたかにかかっているとおっしゃるのだ。脳と身体の機能が健全なら、自分の思いに近い日々を送れる。それが幸せというものと著者はいう。

私の70代は、放送大学と共に過ごし元気で充実した忙しい日々を送っていた。身体の変化を自覚し始めた時介護予防という制度を知り、運動に通いだした。

今日やっと以前を取り返したかと我が身をみて何かをやりたいと意欲が湧いてきたところだ。変化を感じて3年の月日が経った。

脳と身体の機能が健全なら、自分の思いに近い日々をおくれる。それが幸せというものと著者はいう。

楽に、幸せに、いい思い出に包まれた後半生を「楽に生きたい、自分にとって楽な方を選ぶ。自分自身に「お疲れさん!」と声をかけよう」と。

樹木希林さんの残した言葉「あ、そう来たか」という捉え方、「何事も用心するに越したことはない」が制限、制約を持ち込むと生活の中に老いを加速させることになりかねない。等々頷いて読める文面がたくさんあり、著者の言葉に共感し受け入れたいと考える。「ゆっくりした気持ちが高齢期の幸せを生み出すと。」むつかしいことかもしれないが、努めたいと思う。



私の書架散策

No.13

松江市 竹下孝子



書籍名：『70代で死ぬ人、
80代でも元気な人』

著者名：和田秀樹

発行所：(株) マガジンハウス
新書

新聞の紹介から「間違った健康志向が「老化」を早める!!」の文字が目に入り読んでみたいとの思いに駆られ書店で購入した。

そのころコロナがはじまり騒がれた。又同時に、猛暑も重なり行動が制限された。ある日昼の



雪景色の足立美術館

連載企画 ②



松江市 竹下靖彦

家庭菜園に挑戦してすでに30年が

経過しているが、これまで畝にマルチを使用したことがない。その理由は、農業廃プラとなるためである。確かにマルチ農法には有用なことで労働力の省力化、乾燥を防ぎ、保湿を保ち、雑草を抑制し、株本に無駄な追肥をせずにピンポイントで散布できる。

すでに第1回として、2021年1月のたたら16号にて我が家の工作面積と、品種などを記載しているが、新しい読者のため再掲をします。

耕作面積は2か所併せて231㎡、(自宅の地続きに50㎡、200m先に借地181㎡)で、どちらもサンダル履きにて巡回できる。耕作する作物は、

根菜類で大根、ニンニク、馬鈴薯(春・秋)、ラデッシュ、玉葱、かぶ、里芋、サツマイモ等など。

葉物野菜はほうれん草、春菊、小松菜、チンゲン菜、白菜、キャベツ、ブロッコリー、ホウレン草、高菜、レタス等など。

実物は大きやえんどう豆、トマト、ミニトマト、茄子、唐辛子、オクラ等など。

苗は少数の場合(茄子、トマト、キュウリ、唐辛子、ピーマン等)は購入するが、大量に必要とする苗は、すべて自宅にてセルトレーにて播種して育成してから定植する。また、馬鈴薯とサツマイモ苗は購入して定植している。

2022年秋冬野菜類の出来栄えは如何

さて今回は、秋冬野菜類の育成と収穫結果を報告します。



薩摩芋(全量収穫済)、白菜、大根、キャベツ、ブロッコリー、

春菊、秋馬鈴薯(品種出島:全量収穫済)、ラデッシュ(全量収穫済)、小松菜、チンゲン菜、かぶ、高菜、レタス、里芋(全量収穫済)です。

現在畑にある野菜類は、ニンニク、白菜、大根、キャベツ、玉葱、大きやえんどう豆、小松菜、チンゲン菜、かぶ、高菜、レタス、春菊などです。

私の土作りは、もみ殻、米ぬか、石灰、腐葉土、粘土質を軟度するため宍道真砂土を散布して、かんり機(ミニ耕運機)にて攪拌し、鶏糞、化成肥料等を入れ、酸度計にて酸性度、アルカリ度をチェックして、野菜の種類に最も適した土壌の改良をしています。



これから寒くなるが、もみ殻、米ぬかを捲いてスコップにて手作業で天地替え(スコップの土の表面を下にして、土中の

下側を表面に返し、土の塊を崩さずにして土中に酸素を取り入れ、掘り返した塊を寒気に晒して、雑菌や害虫を捕殺します。

今年収穫した秋冬野菜類は、近年にない出来栄えで白菜は1株5kg超で胴回り68cmにも成長し、友人・知人に献上しても大過ぎて無駄になるため小さいのが欲しいとのこと。また大根(聖護



院、大病総太り、青首)も長さ30cm、重さ3kg、



太さ29cm、聖護院大根も長さ15cm、重さ3kg、太さ5.9cmになっている。白菜70株、キャベツ

70株、ブロッコリー30株、秋馬鈴薯も1kgの種イモが11kgの収穫となり、春馬鈴薯が発芽して来たので、その後に秋馬鈴薯が食卓を飾る日々で、作り過ぎると老妻に叱られる日々。



～同窓会からのお知らせ



新会員のご紹介

(2022年4月～2022年11月)

2022年1学期卒業生

- ◎自然と環境 阿部 誠さん(大山町)
 - ◎心理と教育 大場 裕子さん(益田市)
 - ◎情報コース 山根 誠さん(雲南市)
- ご入会有難うございました

◆同窓会活動日誌◆

(2022年7月～2022年12月)

【7月度】

- 04日(月) 第2回(31)回広報部会(Zoom)
- 15日(金) “たたら”19号発送準備
- 17日(日) “たたら”19号発送(郵便局)

【8月度】

- 19日(金) Zoom講習会
- 26日(金) 1学期学位記授与式打合わせ
- 26日(金) 学位記授与式案内状発送
- 27日(土) 第1回会長副会長会議(Zoom)

【9月度】

- 03日(土) 第10回第1回役員会(Zoom)
- 07日(水) 古文書を読む会講師打合わせ
- 25日(日) 第1学期学位記授与式
- 25日(日) 第1学期卒業を祝う会
- 25日(日) 第2学期入学者のつどい

【10月度】

- 11日(火) 第3回(32)回広報部会(Zoom)
- 17日(月) しまね大交流会参加案内状
- 17日(月) 植林ボランティア参加案内状

【11月度】

- 05日(土) 植林ボランティア天候不順
- 06日(日) しまね大交流会参加
- 12日(土) 消費者問題リーダー研修会
- 15日(火) 会報取材(阿部 誠さん)
- 26日(土) 第8回中四国交流会(鳥取)
- 27日(日) 同上

【12月度】

- 8日(木) 第10期第2回役員会(Zoom)
- 10日(土) 学習センター打合わせ
- 15日(木) 第4回(33)回広報部会(Zoom)
- 17日(土) 連合会助成金審査(Zoom)

皆さん会報たたらに投稿下さい

広報部ではより多くの会員の皆さんにご投稿戴くよう毎号お願いをしているところですが、近年はお願いしましても、なかなか原稿が集まりません。

会報は毎号新しい人が登場することで新鮮さを表します。短文でも構いませんのでご投稿をお願いします。

私たちの会報には残念ながら「文芸欄」がありません。日頃詠まれています俳句、短歌、川柳、写真、絵画、つぶやき等大歓迎です。送り先は竹下靖彦宛迄、FAX、mail、郵便でも構いません。

古文書読む会にご参加下さい

古文書は、書かれた時代に人々の出来事を垣間見ることができます。読めた時の達成感を味わいませんか。詳細は同封のチラシをご覧ください。申込先は竹下靖彦迄。

同窓会 当面の行事案内

2022年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2023年3月26日(日)10:40~11:40 (共催:島根同窓会)
会場 松江市民活動センター5階「交流ホール」
対象者 2022年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2022年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2023年3月26日(日)11:40~13:00 (共催:島根学習センター)
会場 松江市民活動センター5階「交流ホール」
対象者 2022年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

島根同窓会第11回通常総会開催のご案内

日時 2023年4月30日(日)13:30~16:00 (共催:島根学習センター)
会場 島根学習センター 3階「第1講義室」
議題 ①2022年度事業報告、②2022年度会計・監査報告、③2023年度事業計画(案)、
④2023年度予算(案)、⑤第6期役員改選、⑥その他
※当日の総会記念公開講演会は予定講師と折衝中です。
※総会の開催案内は改めて後日お知らせします。

～編集後記～

旅行に出る2日前、9月27日に安倍元首相の国葬があった。平成28年12月、日露首脳会談が行われ「もしかしたら？」との淡い期待を寄せたが、「いかにも」のこの人の思わせぶりに、私達はまんまと騙された。「ロシアのプーチン大統領は、日本との平和条約交渉に関連して、憲法に矛盾することはしないとして、領土の割譲を禁止した新しい憲法(改正ロシア憲法)に従って北方領土の引き渡しをめぐる交渉は行わない」という考えを強調しました。(平成29年2月15日・NHKニュース)。何と何と、コレって来る前から既に決めていたことじゃないのかエー！今も世界中で大混乱に貶めているこの人との日露会談が行われた、端正な八階建ての「山容」を誇るその「大谷山荘」を横目に、そこより1kmばかり下った本日の宿泊先へ、無事投宿となりました。旅行から帰ってからの、10月1日の新聞にはこんな記事が載っていましたヨ！「プーチン氏4州併合宣言」・「ウクライナで制圧した東南部4州の併合を宣言した」。山口県長門市の方へ行ってきました。(知野見)